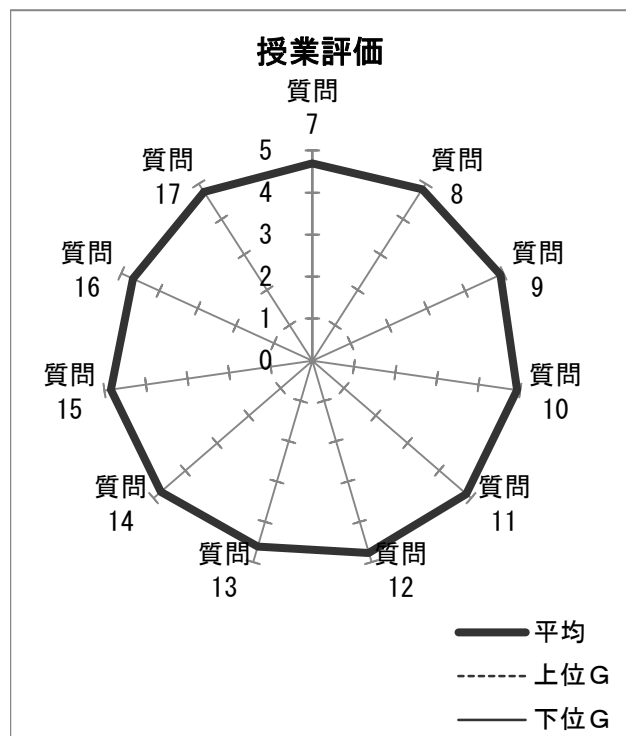


科目コード 102 (2017年度 前期)

文学部 英語学科 新井 恭子 Junior Seminar I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

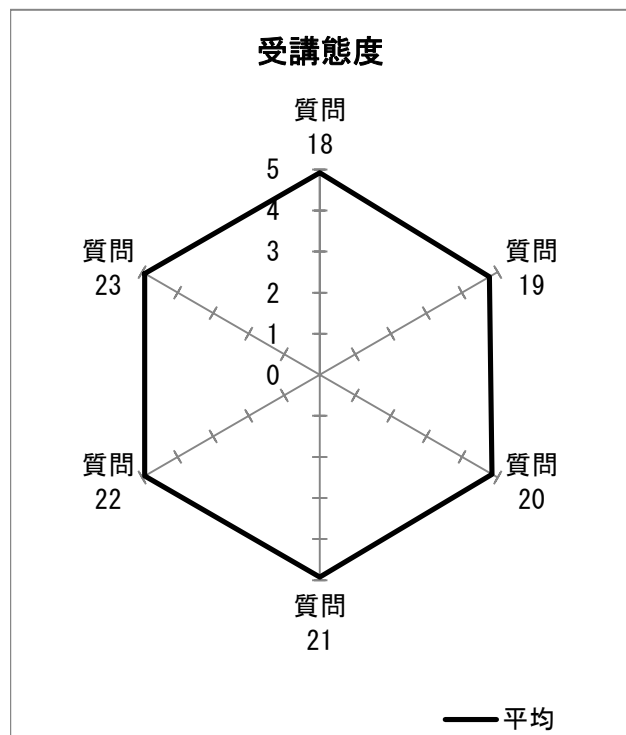
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.8
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	新井恭子	英語 IV	30

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

前期に続き、本年度 4 月に赴任してきたため、前年度のシラバスや学生のレベル等がわからなかったもので、実際に授業が始まり教え方を調整した。そのため、質問 7 の授業の目標説明とシラバスに沿った実施の点数が低かった。質問 8 の授業時間の厳守もやや低いが、遅刻等はしていなかったと思う。

また、質問 1 2 の授業環境に対する配慮が低く出ているのは、当該学科は、おしゃべりが多かったのもので、注意したつもりであったが、徹底しなかった場合が確かにあった。

II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名：_____

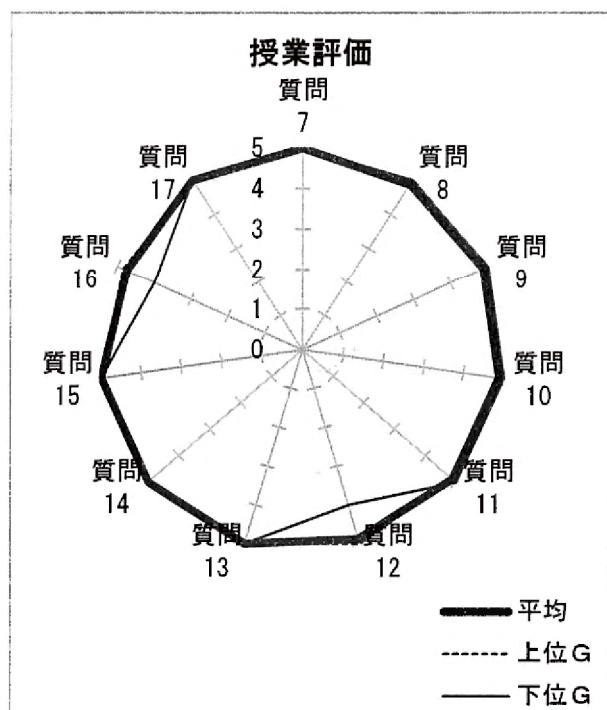
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

他学部の 1 年生の英語の授業はなかなか学生の態度や英語のレベルがよくつかめなかったもので、次年度からは、最初に英語の基礎知識のテストを行い、対応していくこととする。

授業態度に関しては、私語を慎むように厳しく指導していきたい。

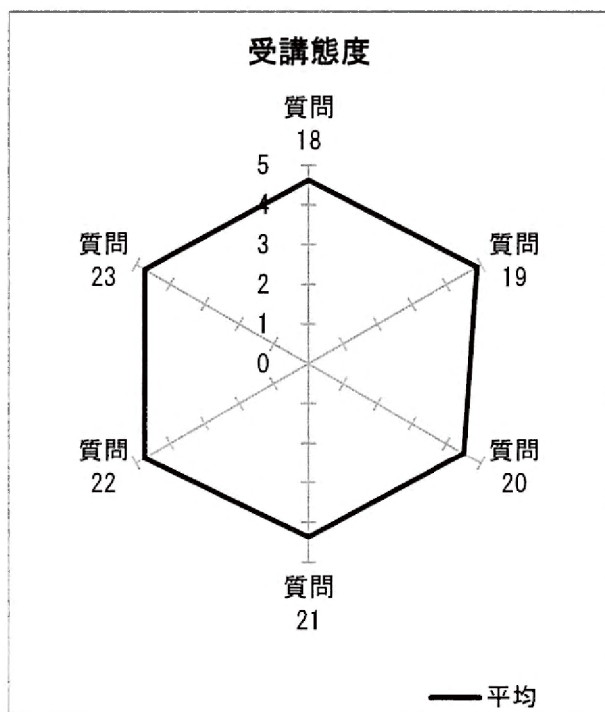
科目コード 107 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 上野 葉子 3年セミナー II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.9	5.0	4.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	5.0	5.0	5.0
質問15	5.0	5.0	5.0
質問16	4.8	4.9	4.0
質問17	5.0	5.0	5.0
平均	4.9	4.9	4.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.9
質問20	4.5
質問21	4.4
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	上野葉子	3年セミナーⅡ	8

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体の平均が 4.9 であり、良い結果であったと思う。質問 7, 13, 14, 15, 17 については 5.0 であり、シラバスの遵守や質問への対応、理解度の確認などにおいて良い結果である。履修者の数が少なかったこともあり、学生のようにすを十分に確認しながら授業を進めることができたので、よいアンケート結果が得られたと思う。

質問 16 の「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」については他の項目に比べて低い値の 4.8 になっている。この 3 年セミナーⅡでは、卒業論文、卒業制作のテーマを見つけるヒントにするためアメリカ文化について論じたテキストを用いたが、論じられている内容を難しく感じる学生もいたようなので、このような数値になったのではないかと思う。

Ⅱ. 2018 年度に向けての取り組み

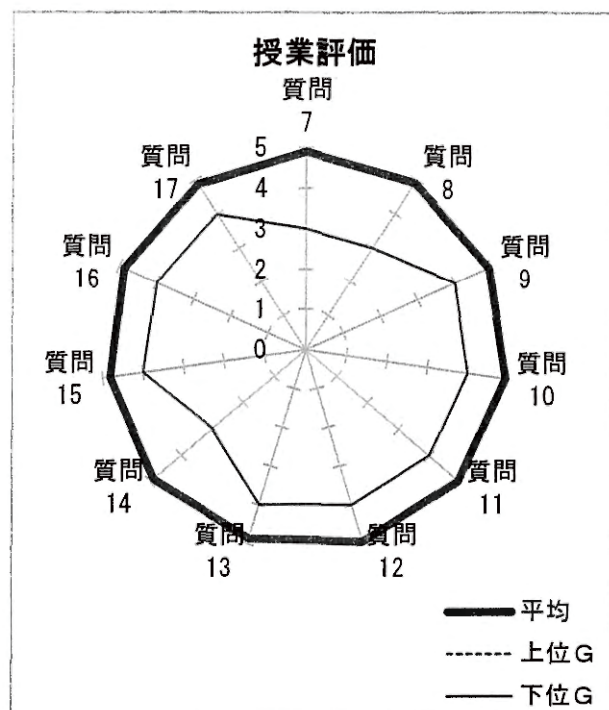
2018 年度担当予定科目名： 3 年セミナーⅡ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今後も、学生が理解しやすいように工夫を重ねたい。2018 年度は履修者が多いため、学生の理解度に注意を払い、反応を見ながら補足の説明を加えるなど、丁寧に対処したい。

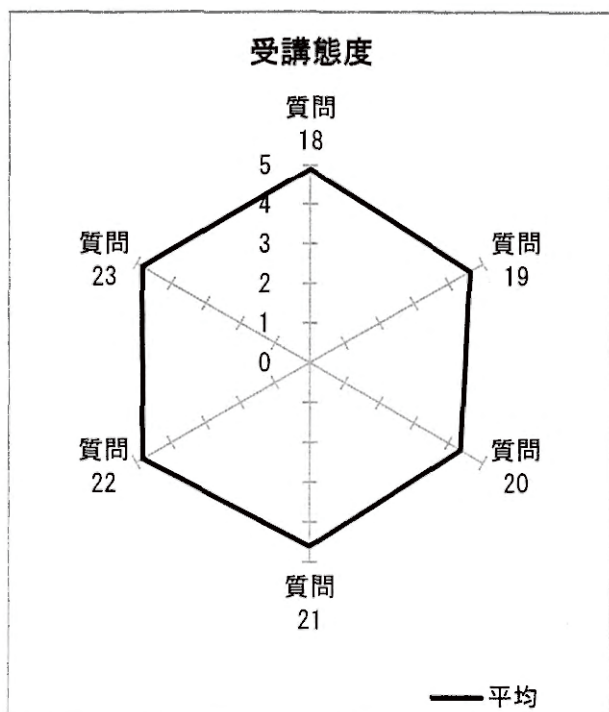
科目コード 120 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 西原 真弓 異文化コミュニケーション論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	3.0
質問 8	4.9	4.9	3.0
質問 9	4.9	4.9	4.0
質問10	4.9	5.0	4.0
質問11	4.9	5.0	4.0
質問12	4.9	5.0	4.0
質問13	4.9	4.9	4.0
質問14	4.9	4.9	3.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.9	4.9	4.0
質問17	4.9	4.9	4.0
平均	4.9	4.9	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.6
質問20	4.4
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	西原真弓	異文化コミュニケーション論	38 名

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

38 名の受講生のうち 1 名をのぞく 37 名は受講態度に関する自己評価が高く上位グループに分類されている。上位グループの受講生による授業評価は、比較的どの項目においても高い。大人数クラスの講義型授業であるため、一方的な知識伝授ではなく学生参加型になるよう努力をしているが、発言の機会をさらに与えるよう工夫したり、理解度をさらに丁寧に確認するなど改善の余地はまだあることがわかる。

下位グループに分類されている 1 名の受講生に関しては、「どちらとも言えない」(3.0)評価をしている項目が、質問 7 の授業の目標説明とシラバスに沿った実施、質問 8 の授業時間遵守、質問 14 の理解度の確認と授業への反映の 3 項目である。それ以外の項目は「どちらかと言えばそう思う」と答えているため、先述の 3 項目に関して、さらなる配慮が求められることがわかる。

II. 2018 年度に向けての取り組み

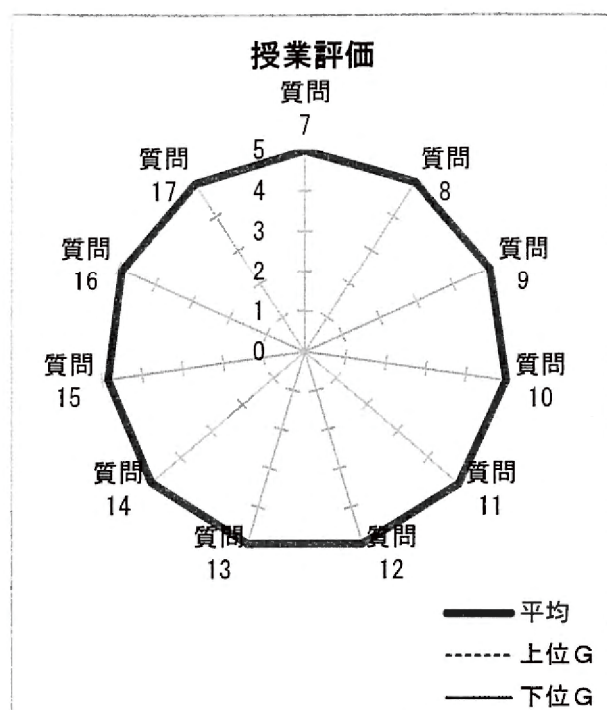
2018 年度担当予定科目名：異文化コミュニケーション論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

大人数クラスの授業の場合、一人一人の理解度の確認をさらに丁寧に行いたい。現在も授業の最後にコメントシートを書かせているが、その中に理解度を聞く項目を作ることによって質問をしやすくする工夫を試みたい。

科目コード 126 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 深堀 悦子 Academic Listening II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

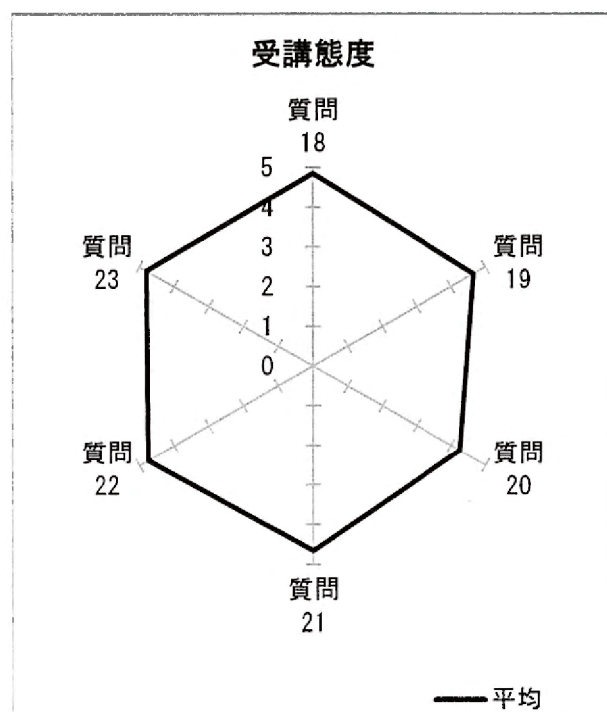
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.3
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	深堀 悦子	Academic Listening II	20

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教員の話し方、教材・機器・板書等の効果的な使用、説明のわかり易さ、質問機会の確保と質問への適切な対応、学生の理解度の確認と授業への反映など、すべての項目において、学生は大変満足できるものだったと評価している。第一回目の授業では、言語ポートフォリオを用いて学生に明確な学習目標を立てさせ、学期をとおして自己の学習状況をモニターするよう指導した。

毎回の授業は英語で行われ、学生は教科書のリスニング教材（学術的内容の講義）を聴いて、メモを取り、取ったメモを参照しながら、理解度確認のための設問に答えてゆき、教員は、学生が十分理解できていないと思われる点について、適宜、解説や補足説明を行った。なお、原則として毎回、授業の最後の 10 分間を使い、その日の授業で聴いた講義内容に関する TOEFL 形式のリスニングテストを実施した。

リスニング能力は絶えず英語を聴いていないと向上しないため、授業外の課題として、学生たちに毎週、授業で扱ったのと同じトピックに関するオンライン・リスニングテストを受験してもらい、教員は個々の学生のテスト結果をモニターしていった。テストの成績が 60%に満たなかった学生には、リスニング・ジャーナルを提出してもらい、教員は書かれた内容を確認していった。

学生たちの受講態度は真面目であり、授業外のリスニング課題を含めた学習の成果は、TOEIC のリスニング・セクションのスコアの伸びに反映されていると思われる。

II. 2018 年度に向けての取り組み

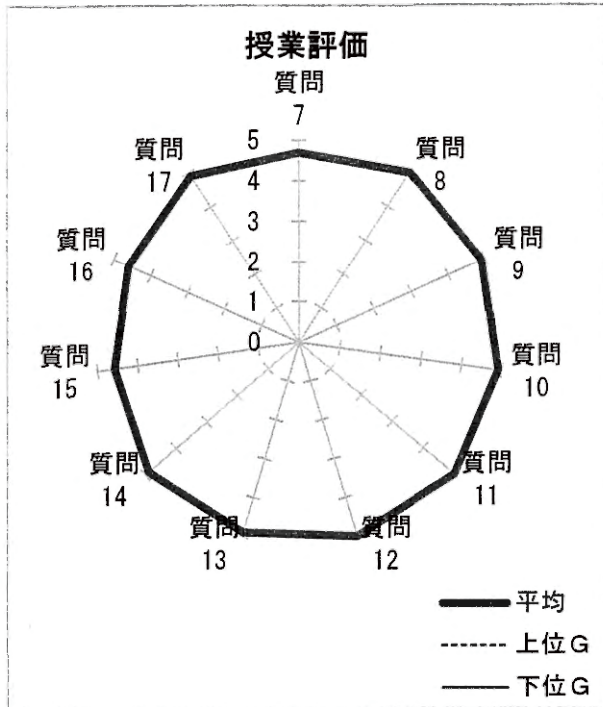
2018 年度担当予定科目名：Academic Listening II

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生の英語リスニング能力を伸ばす方法の一つとして、リスニング・ジャーナルは有効であることがわかったので、来年度も授業をとおして奨励してゆきたい。

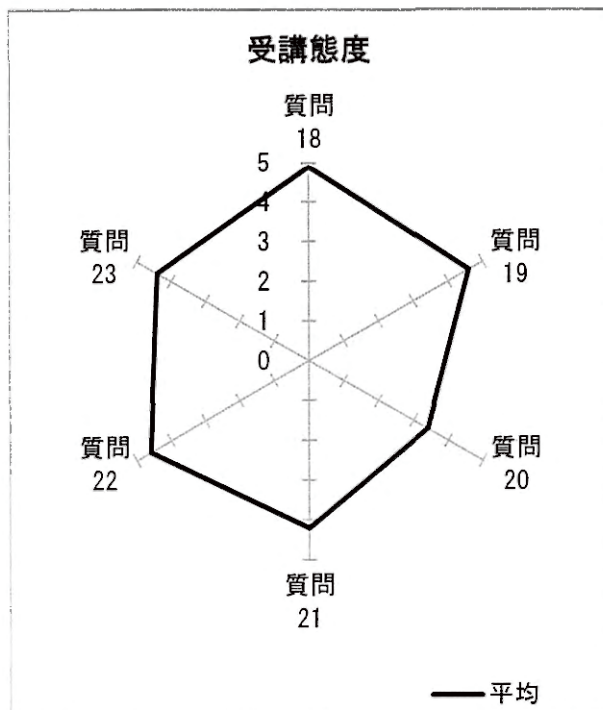
科目コード 127 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 深堀 悦子 英米文学演習 II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.6
質問20	3.4
質問21	4.2
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	深堀 悦子	英米文学演習Ⅱ	10

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教員の話し方、教材・機器・板書等の効果的な使用、説明のわかり易さ、質問機会の確保と質問への適切な対応、学生の理解度の確認と授業への反映など、すべての項目において、学生はほぼ満足できるものだったと評価している。授業では、イギリス人作家による史実に基づいた戯曲を、毎回の授業で精読してゆくとともに、その映画化作品の鑑賞を通して、作品理解を深めた。

この科目は 3 年次後期開講であるため、受講生は 3 年生と 4 年生から成り、英語の読解力においても個人差が大きかったため、教員はできるだけ丁寧でわかりやすい説明を心掛けた。また、4 年生については就職活動や教育実習のため授業を欠席せざるを得ない場合もあり、受講生全員が揃わない授業もあったが、毎回の授業で予習プリントを配付することにより、授業の進行状況を確認していった。学生の受講態度は大変真面目だった。

本格的な文学作品の精読に慣れていない学生や、この授業を難解に感じた学生も少なからずいたと思われるが、予想外に、良いアンケート評価が出たことにほっとしている。

II. 2018 年度に向けての取り組み

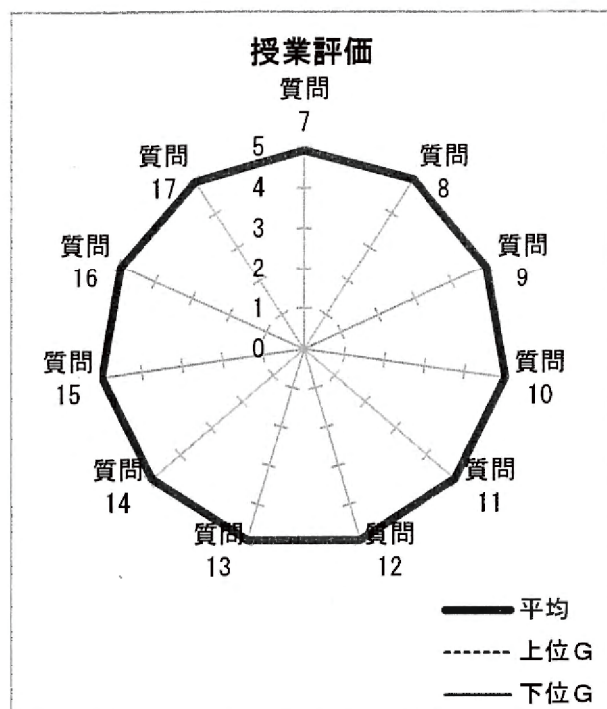
2018 年度担当予定科目名： 英米文学演習Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

文学作品の精読に慣れていない受講生も考慮に入れ、来年度は、現代イギリス文学を代表する作家による比較的読みやすい英語で書かれた小説をテキストとして選びたいと思う。

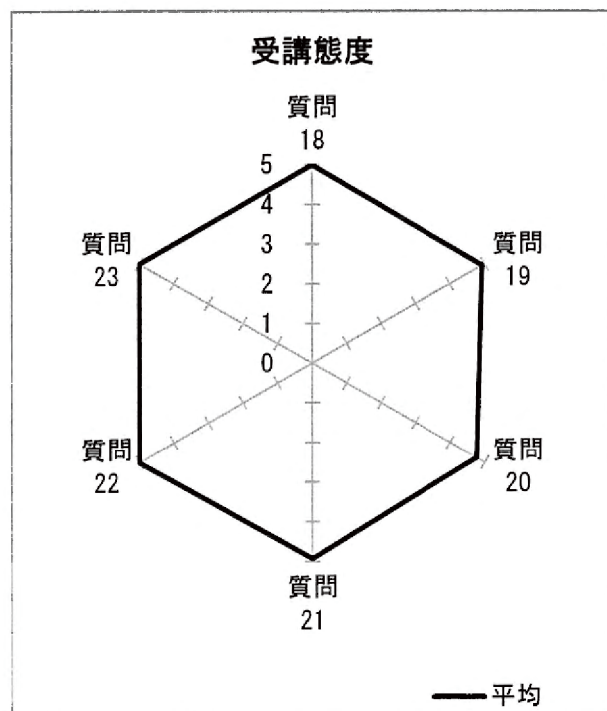
科目コード 136 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 John Anderson Academic English VI



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.9
質問20	4.8
質問21	4.9
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
Faculty of Humanities	Department of English	John Anderson	Academic English VI	13

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This was a class in Academic English for the “Top” English ability group. The students were clearly quite satisfied and pleased with the way this class was conducted (as can be seen in their scores in the first set of questions: all 4.9 or 5.0). They understood both the content and purpose of class activities and explanations by the teacher and were very positive in their approach to learning and practice. These students are highly motivated and independent English learners who were able to further build on their skills as well as increase their interest and motivation.

II. 2018 年度に向けての取り組み

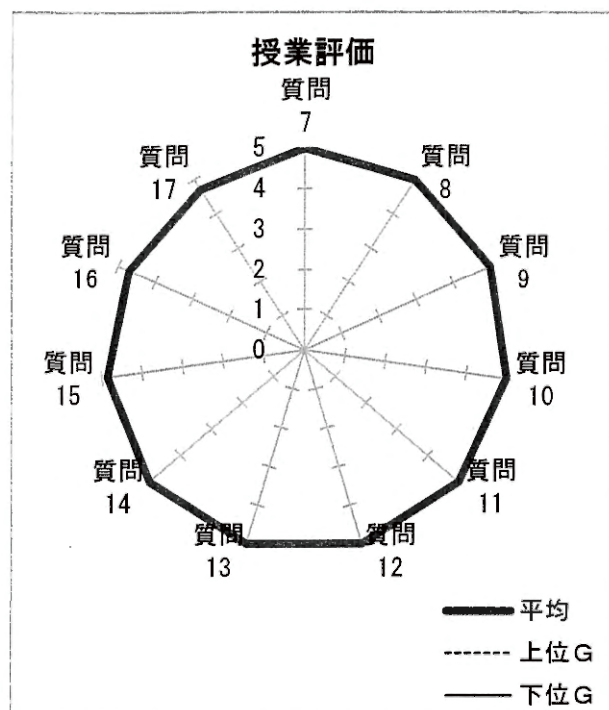
2018 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

The results of this questionnaire indicate that it would be desirable to continue teaching this course in a similar fashion, being well-prepared and trying to assist and further motivate each individual student.

科目コード 137 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 John Anderson Academic English VIII



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

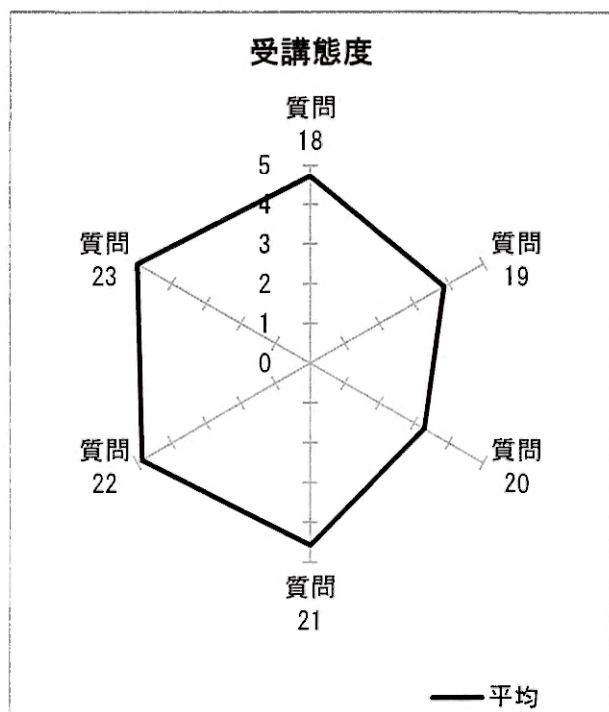
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	3.9
質問20	3.3
質問21	4.6
質問22	4.9
質問23	5.0
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
Faculty of Humanities	Department of English	John Anderson	Academic English VIII	7

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

This was a small Academic English VIII class with only 7 students (in the “middle range” ability group). They were all very positive, participated eagerly, and genuinely enjoyed the class. They were very satisfied with the way the class was conducted, as can be seen in their scores of 5.0 for every question # 7 - # 14 (100%).

The lowest average score was 3.3. This was for students’ perception of their attendance, and is understandable, since they were 4th year students who were also busy with job-hunting and attending job seminars.

Their score of 3.9 for question # 19 is interesting – although the lower ranking can likely be attributed to 2 students (who indicated that they weren’t quite sure if they always understood the purpose and content of the class) out of only 7 students in the class.

II. 2018 年度に向けての取り組み

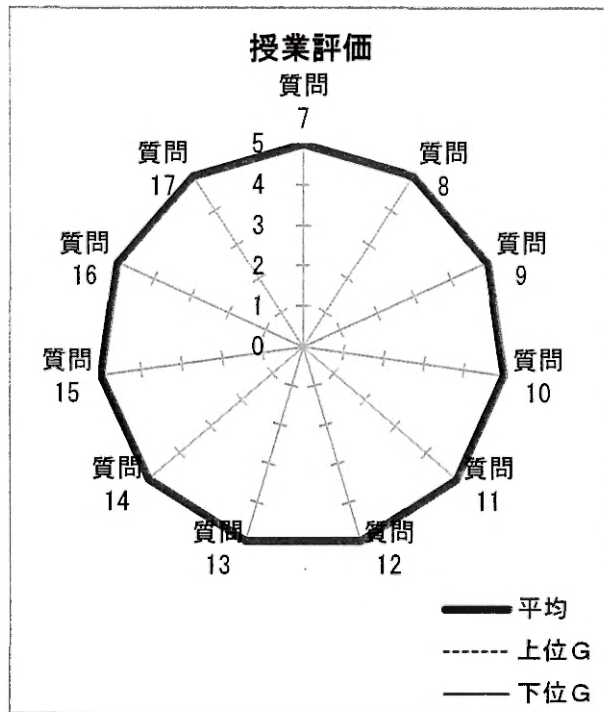
2018 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I would recommend conducting the class in a very similar fashion next year. I would also try to make sure that ALL students clearly understood the purpose and content of the course. Finally, I would try to give individual assistance on a regular and continuous basis.

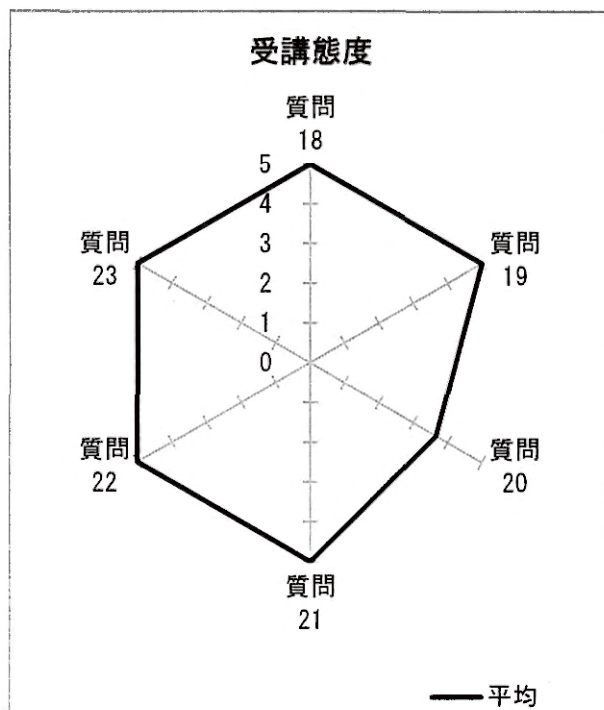
科目コード 141 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Richard Bent Comparative Cultural Studies



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	3.7
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	Comparative Cultural Studies	3

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This year's course offered a unique opportunity as only three students were in attendance (the course attendance goes up and down year by year; previous years have up to thirty students, and the new year has 29). As such, the course became much more discussion and presentation focused than would otherwise have been possible. As all three students had experience studying and living abroad to varying degrees, they were able to draw upon their own experiences to compare and contrast those foreign cultures to Japanese culture. Each week topics were given for students to discuss, and frequently had to research before class. There was also a final written report. Judging from the feedback, it appears the students liked this approach.

II. 2018 年度に向けての取り組み

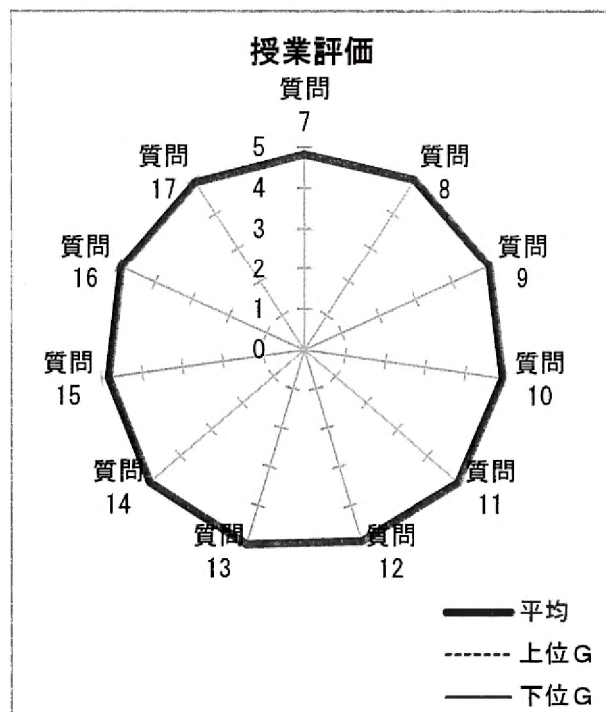
2018 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

As noted previously, this year was very unusual due to the very small number of students enrolled in the class. In future classes, much more structure will be needed (which was of course prepared but due to the low enrollment a more flexible approach was deemed better).

科目コード 142 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Richard Bent Business English



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

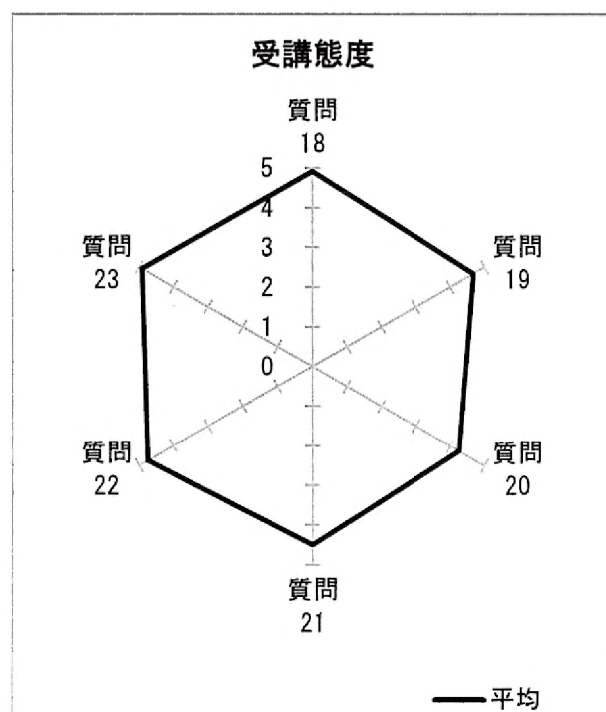
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.3
質問21	4.5
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	Business English	12

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Due to new vocabulary and concepts concerning business that students may not be familiar with in their own language, Business English is often a difficult subject to study. However, the feedback from the students indicates they enjoyed the course and found it worthwhile.

II. 2018 年度に向けての取り組み

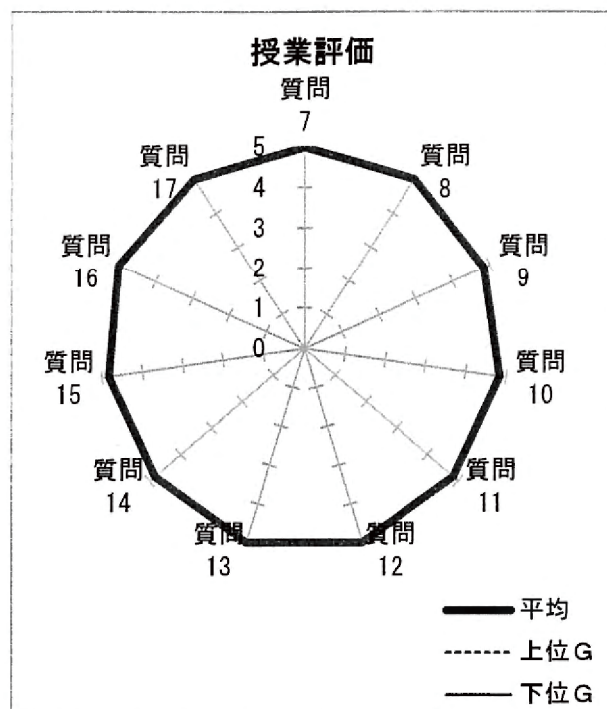
2018 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I believe the course does not need to change, and that the materials and format (text, video, presentations, etc.) worked well enough to do again in the next year.

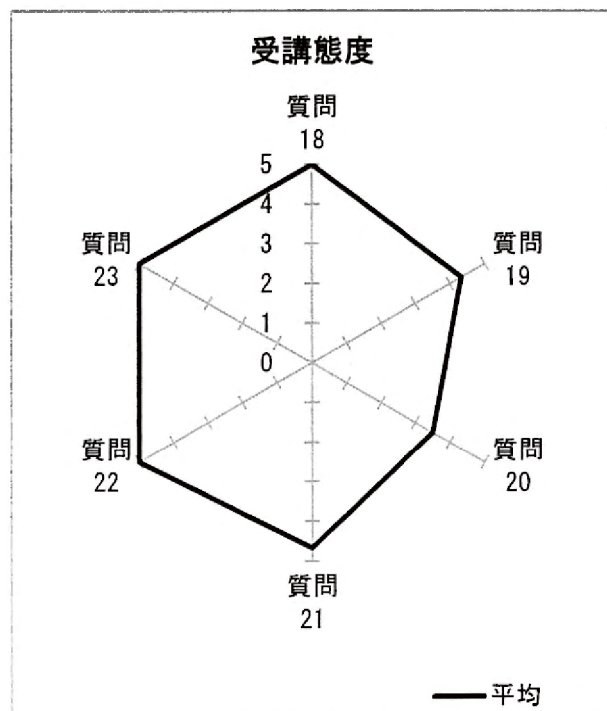
科目コード 152 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Sergio Mazzarelli Senior Seminar II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.3
質問20	3.5
質問21	4.7
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文 学 部	英 語 学 科	Sergio Mazzarelli	Senior Seminar II	6

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

I am delighted to see that all students were satisfied with this course. The textbook and other study materials were among the most challenging I have ever used with undergraduates. However, they suited this particular group of learners, who had considerable skills and had used a textbook from the same series in the previous year. Moreover, because this was a small-group seminar, I could pay sufficient attention to each learner. The students participated enthusiastically in class and completed all assignments satisfactorily. The quality of both interim and final presentations was high.

II. 2018 年度に向けての取り組み

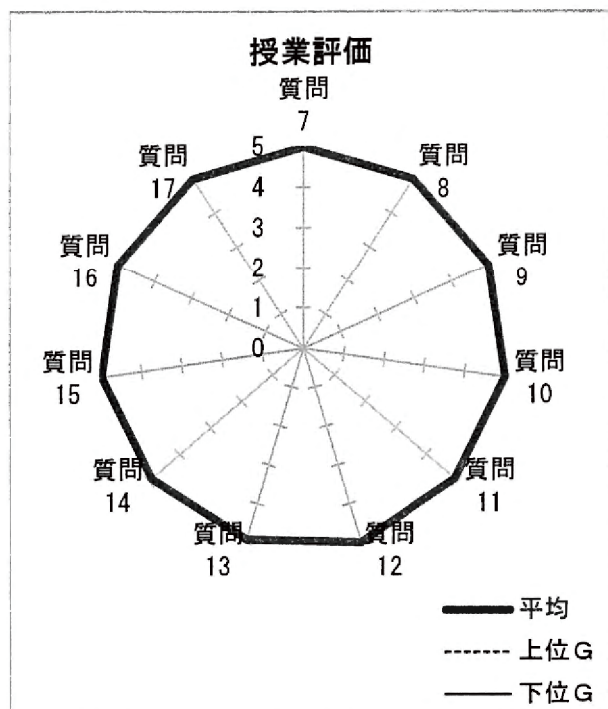
2018 年度担当予定科目名 : Senior Seminar II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

The key to the success of this seminar in 2017 was the fact that the materials I used were suited to my students' interests and abilities. Therefore, next year I will keep the same general approach but use different materials that I hope will suit my new students.

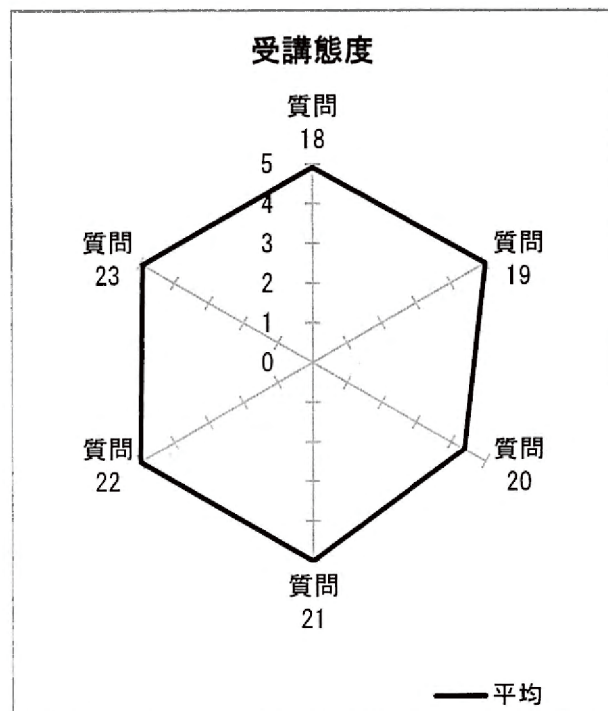
科目コード 153 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Sergio Mazzarelli Academic Listening IV



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	5.0
質問20	4.4
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	4.9
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文 学 部	英 語 学 科	Sergio Mazzearelli	Academic Listening IV	14

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

All students in this course made efforts to improve their listening, note-taking, and presentation skills. They listened to textbook materials in class and to recordings of their choice outside class. By keeping listening journals in which they described their out-of-class listening experiences, they monitored their learning and developed independent listening habits. The course also benefited from the use of an adapted version of the European Language Portfolio, which allowed students to set clear goals for their activities and reflect on their progress.

II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : Academic Listening IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Since I was satisfied with my students' progress, I intend to teach the course in the same way next year.